

第9回 緑化フェア幹事会
議事録

令和7（2025）年8月6日

■次第と記録記載ページ

- 1 開 会
- 2 全国都市緑化かわさきフェアにおける取組と
今後のみどりのまちづくりに向けて 【資料1】
- 3 実行委員会第7回総会の議案について 【資料2・3】
- 4 その他
- 5 閉 会

■日時と場所

日時：令和7年8月6日（水）13：30～15：00
場所：川崎市本庁舎201会議室

■出席者

幹事（出席8名）		
分野	氏名（敬称略）	所属
学識	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 教授
協働推進	栗原 国男	公益財団法人川崎市公園緑地協会嘱託 東京農業大学地域環境科学部地域創成学科 非常勤講師
出展展示	深町 貴子	園芸家：多摩区在住
交通対策	米川 僚一	一般社団法人 川崎市交通安全協会 専務理事
会場運営	渡辺 広之	京都芸術大学芸術教養センター 客員教授
行催事	反町 充宏	一般社団法人 川崎市商店街連合会 理事・青年部長
広報・PR	大西 絵満	かわさき市民放送株式会社 代表取締役
飲食・物販	萩原 ひとみ	一般社団法人 川崎市観光協会 理事

事務局（矢口課長、金井課長 他）

■配布資料

資料 1	全国都市緑化かわさきフェアにおける取組と 今後のみどりのまちづくりに向けて
資料 2	令和6年度事業報告及び収支決算について
資料 3	川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア 実行委員会の解散及び残余財産の清算について
参考資料1	実行委員会第7回総会及び交流会について
参考資料2	今後のスケジュール

■会議録

1. 開会

【事務局（矢口課長）】

ただいまから第9回緑化フェア幹事会を開催させていただきます。

本日は皆様、お暑い中、そしてお忙しい中、当幹事会に御出席いただきまして、ありがとうございます。

また約2か月前の5月下旬に2回に分けまして、幹事の皆様と一緒に春の開催を振り返らせていただきました。改めて感謝を申し上げたいと思います。

全国都市緑化かわさきフェアが閉幕いたしました4か月が経とうとしております。本日はフェアの振り返り及びフェア後に始まっている取組について御報告させていただきまして、幹事の皆様から御意見を頂戴できればと考えております。

まず本日の出席者につきましての報告でございますが、本日、矢澤幹事、今井幹事につきましては御欠席となっております。大西幹事につきましてはオンラインでの御参加となっております。

事務局といたしましては、本日、緑化フェア推進室の担当、そしてシティプロモーション推進室の担当、グリーンコミュニティ推進室等の本市の職員も出席しております。

本日、傍聴の方はいないので、このまま進めさせていただきたいと思います。

それでは、開会に当たりまして、福岡幹事長から御挨拶を頂ければと存じます。

福岡幹事長、よろしくお願いいたします。

【福岡幹事長】

皆様、こんにちは。

緑化フェアから大分時間がたってしまいましたけれども、本日はレガシー事業や、今回、緑化フェア後に新しく創設されたグリーンコミュニティ推進室の取組などの御紹介があると思いますので、ぜひ次につながるような御意見を頂ければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（矢口課長）】

ありがとうございます。それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

議事を進めるに当たりまして連絡事項をお伝えいたします。

本日の報告内容でございますが、8月22日のまちづくり委員会、そして後ほど御案内いたします、8月29日の実行委員会第7回総会での報告内容となりますことを御承知おきください。

また当幹事会につきましては公開の取扱いとさせていただきます。本日の会議録に個々の発言者氏名を記載させていただくことをあらかじめ御了承いただきたいと思います。

次に資料の確認をいたします。幹事の皆様は、こちらの会場ではお手元にありますタブレットで資料を格納させていただいております。資料は次第に続きまして、資料1「全国都市緑化かわさきフェアにおける取組と今後のみどりのまちづくりに向けて」、資料2「令和6年度事業報告及び収支決算（緑化フェア）について」、資料3「実行委員会の解散と残

余財産の清算について」、参考資料1「実行委員会第7回総会及び交流会について」、参考資料2「今後のスケジュール」を配付させていただいております。

もし途中で、タブレットの不具合等がございましたら、途中でも事務局までお申し出いただきたいと思います。

それでは、ここからの進行は福岡幹事長にお願いしたいと思います。

【福岡幹事長】

それでは、ここから私が進行を務めさせていただきます。

まず次第2「全国都市緑化かわさきフェアにおける取組と今後のみどりのまちづくりに向けて」を事務局より説明をお願いします。

2. 「全国都市緑化かわさきフェアにおける取組と

みどりのまちづくりに向けて」について（資料1）

【事務局（矢口課長）】

それでは私から説明させていただきます。資料01をお開きいただきたいと思います。

こちらの右下1ページをお開きいただきたいと思います。こちらは改めて開催概要となります。秋春開催で162万人の来場者がありましたことを記させていただいております。

次のページにつきましては基本実施計画から抜粋しております。かわさきフェアで目指しました将来像、そして5つの基本方針を載せております。

続きまして3ページを御覧ください。こちらが先ほどの162万人の内訳としまして、秋そして春の集客数を載せております。秋のほうは平日と休日との差が非常に顕著でございまして、春のほうは様々なコンテンツを平日にも当てはめてまいりまして、このような形で差が縮まった結果が出ております。

続きまして4ページ目でございます。こちらがフェア開催によります経済波及効果でございます。こちらの計算方法といたしましては、実行委員会の支出額と来場者アンケート結果によりまして算出しました来場者消費額の合計を需要増加額といたしまして、これに基づいて川崎市産業連関表、そして神奈川県産業連関表により推計を行ったところでございます。括弧書きが市内で計算いたしましたもので、その外側が県内で計算したところでございます。県内においては直接効果が93億3,000万円、間接効果が41億9,000万、合計135億2,000万円という結果となっております。市内のほうは合計で88億7,000万という結果となりました。

続きまして5ページ目から7ページ目にかけては、フェアの広報について取りまとめさせていただいております。8ページ目を御覧いただきたいと思います。こちらが秋から春にかけて、また情報の様々な発信を工夫してまいりました。その結果、サイトの閲覧数も増加いたしましたし、またXのフォロワー数が9,197人、インスタグラムは5,804人となりまして、多くのSNSを利用される方々に関心を持っていただいたところとなっております。

続きまして9ページ以降でございます。ここからは時系列に沿って開催の振返りをさせ

ていただいております。最初のところは開催までの取組ということで、9ページは開催前の子どもたちと取り組んだ協働の取組、次のページは、さらに高校生や大学生といった世代も加わっての協働の取組を掲載させていただいております。

続いて11ページからは、秋の3つのコア会場での振返りとなっております。最初のページが富士見公園会場の公式行事、そしてその次のページからは会場の展示、そしてイベントの振返りとなっております。次のページからは等々力緑地会場での振返りが2ページございます。次のページが生田緑地会場のページ、そして次のページのイベント、そしてバラ苑の開催もございましたので、そちらも載せておまして、最後、19ページについては閉幕の際に、お花を配ったプレゼントの様子となっております。

続きまして20ページを御覧いただきたいと思っております。ここからは秋から春にかけての生育期としたところの取組となっております。まず最初はボランティアや市内の子どもたちと一緒に取り組みました花壇づくりの様子でございます。

そして次の21ページでございますが、フェアのボランティアに集まっていたいただきました皆さんにお声かけいたしまして、この冬の期間、交流会を実施いたしました。2回に分けて開催いたしまして、110名の方に御参加を頂きました。こちらでは秋の振返りと春に向けて、どんな工夫をしていったらいいかの話し合いをいたしまして、各テーブルの皆さんに御発言をいただいて、皆さん全員で、それを共有した形になります。ボランティアの皆さんにも花苗をつくっていただきまして、会場づくりにも関わっていただいた形です。そしてフェアにとどまるだけではなくて、フェア終了後もまちなかの活動にぜひ参加していただきたいということで、そういった情報もその場で提供させていただいたところになります。

続きまして22ページからは、春の3つのコア会場の振返りとなっております。富士見公園会場の公式行事、そして展示、また装飾。こちらは春の花壇で装いも変わりましたこととともに、花壇にプラスアルファの工夫をしてきたところなどを載せております。そして等々力緑地会場でございます。こちら花壇のリフォームとともに、そのほかの様々なイベントについて掲載しております。そして3つ目の生田緑地会場でございます。こちら秋に加えてのプラスアルファのエントランスゲートの工夫でしたり、あるいは様々なこんなことをやりたいという企画を秋に募集をいたしまして、それらを実現した会場の取組を御紹介させていただいております。そして最後に、この春の閉幕のときに花苗をプレゼントした様子も載せております。各御家庭にお持ち帰りいただいたほか、近隣の学校の花壇にも活用いただいた風景を写真で載せさせていただいております。

30ページを御覧ください。こちらが植物調達の最終的な株数を載せさせていただいております。市内産のパンジー、ビオラをはじめとしまして多数の植物を調達し、来場者に楽しんでいただけた形になります。

続きまして、こちらがフェア会場以外でフェア期間を中心に様々なみどりと掛け合わせましたイベントを開催いたしました。そちらの紹介となっております。みどり×清掃×灯籠流しということで、二ヶ領用水では、こういった新しい掛け合わせのイベントを地域の方と実施することができました。秋、そして春のほうは川下りも加えた形での実施ができたところがございます。大変御好評を頂きました。

続いて33ページからがフェアの総括を項目ごとにまとめさせていただいております。

まず最初は協働推進でございます。こちらについては、子どもたちが花苗を170校で栽培した取組によりまして、子どもたちが自分たちの育てた花苗が飾られることで町への関心を持つことにつながった点をまとめさせていただいております。またフェアのボランティアもかなり多くの世代が集まったことなどをまとめさせていただいております。

続きまして34ページでございます。観客誘致・広報宣伝につきましてでございます。フェアの開催前から様々な場所でイベントを開催いたしまして、フェアの周知等を行ってまいりました。また公共交通機関等の広報も展開してまいりまして、プラス、SNSなどによりまして、これまでもみどりに関心がある層以外の方々にも周知を行うことができた点をまとめさせていただいております。

続きまして35ページを御覧ください。こちらは会場につきまして、3会場ごとのまとめをさせていただいております。それぞれの会場のコンセプトとともに、特徴的なまとめをさせていただいております。富士見公園会場はお花の美しさ以外にも最先端の技術などの提案を行って来ました。あるいは会場に向かう道すがらの道路空間の活用など、都市ならではのみどりの価値を表現することができたとしております。また等々力緑地会場では、こちらはファミリー層などを中心に子ども向けのコンテンツを様々な展示しまして、アクティブガーデンによりまして様々な挑戦的なことを行いまして、広く皆様に楽しんでいただけました。アクティブガーデンにおきましてはリピーターの方も大変多くおりました。ファミリー層を中心に多くの方が訪れていただきましたことをまとめさせていただいております。また生田緑地では、自然に親しむとともに夜のイベントですとか、市民提案企画など、新たな取組にチャレンジしまして、生田緑地らしい感じを楽しんでいただいたことを取りまとめさせていただいております。

次のページにつきましては出展展示ということで、コンテストに関すること、そして植物調達の調達体制の構築などについてまとめております。

37ページは行催事につきましてまとめております。花やみどりに関連するワークショップのほかに市内を中心に活動するの方々によるステージプログラムの展開によりまして、様々な層に受け入れられるような要素を取り入れて盛り上げることができたことなどを載せさせていただいております。また飲食・物販も川崎ならではの出品をしていただくとともに、プラごみ排出低減策を進めることができたことを述べさせていただいております。

次の38ページの会場運営・管理につきましては、これまでの結果とともに、様々な企業とも連携いたしまして、資源リサイクルの推進なども進めたことを記載させていただいております。また交通輸送も、各会場の特徴に合わせまして様々な交通機関を補完するサービスを提供できたことを述べさせていただいております。

39ページがまとめとさせていただいております。これまでの様々な取組によりまして、暮らしの中にみどりを取り入れるきっかけや気づきとなりまして、みどりを通じて多くのつながりを生むことができたこと。そして次の100年に向けて、多くの人たちとのつながりをさらに広げていくための取組を継続していくことについてまとめさせていただいております。

次のページにつきましては、閉会式でお披露目いたしました「みどりのKAWASAKI宣言」を掲載させていただいております。

続きまして41ページを御覧いただきたいと思っております。このKAWASAKI宣言を中

に、将来に向けまして、私たちの取組として、一つは、大きな流れとしての地球環境に関するネイチャーポジティブですとか、サーキュラーエコノミーなど、これまで以上に高い意識を持って取組を進める必要がございます。その一方で、まずは身近なところから、私たちがみどりを実感できる取組を進めていくことが大事だと考えております。

そのため、ここからは、このフェアを契機に身近なところで始まっている取組を紹介させていただきたいと思っております。

4 2 ページをお開きいただきたいと思います。まず身近な取組として、本日は9つの取組を紹介させていただいております。こちらでは前にも御紹介しているものは説明を割愛させていただきます。

4 3 ページからが小学校等と連携した花づくり・花苗づくり等のお話でございます。こちらはフェアが終わりました今年度から、いよいよ本格的にこちらを開始してまいりたいと考えている取組でございます。今年度も市立の小中・特別支援学校170校で、花苗を育てまして、それを身近なところ、そして身近な公園やまちなかの花壇、そして学校の内外で活用していただく取組を進めてまいります。こちらは公園での展開ですけれども、現在の予定では70公園以上で子どもたちの花苗を生かせる取組を進めているところでございます。

続きまして2番目は地域の団体と子どもたちのつながりをきっかけとしまして、生き生きとした協働の取組を進めて行きたいという内容でございます。

次のページに参りまして、具体的には今年度に始まっているものとしまして、中原区のごすぎ公園、こちらで地元のコンポストをつくる団体の皆様と土づくりに関わっていただき、そこに子どもたちが参加して、お花植えをし、また、その後も水やりで関わっていただくとう。こういう取組が進んできているところでございます。また昨年からはまりましたまちなかの花壇に保育園児が散歩のときにお水やりを手伝っていただく取組も今後も続けていきたいと進めているところでございます。

続きまして3番目でございます。協賛花壇の取組でございます。こちらはフェアをきっかけに始まりました市役所通り、キングスカイフロント、そして向ヶ丘遊園駅前の花壇、こちらにおきまして、引き続き企業の皆様からの協賛を頂き、また植えつけイベントなどにも御参加いただくことによりまして、企業と地域でまちの魅力向上につなげていく取組として始まっているものでございます。今後はこういったところにも子どもたちがつくった花苗を展開させていただきたいと考えております。

続きまして4番目でございます。フェアのボランティアをきっかけとした様々なまちづくり活動への参画でございます。フェアのボランティアの皆様とつながりができたところでございます。今後、学校の花苗のサポートですとか、また地域での花壇活動などにも御参加、そこに加えまして次のページで御紹介しておりますけれども、今後、みどりの事業として展開していきます子どもの遊び場に関するイベント、こういったところにも御参加をいただけるように、こちらからも参加の呼びかけと情報発信をしていきたいと動いているところでございます。

続きまして5番目の取組でございます。こちらは、みどりの共創プロジェクトとして展開しているものでございます。フェアを契機に結成されました団体m i d o r i - b a が今、仲間をどんどん増やしているところでございます。メンバーとして今、15団体ぐら

いに増えてきているところがございます。次のページでは、今年度、これからのイベントの予定などを掲載しております。このように市内各地で、みどりに関わる催事等を実施していただくと。市としては、こちらを支援サポートしていく形を取っていきたいと考えているところがございます。

6番目の取組でございます。公園管理を担う民間事業者が仕掛けるライトな公園管理への参画でございます。高津区の橋公園におきましてパークPFI事業者がLINEのオープンチャットという機能を使いまして、水やりなどの呼びかけを地域の住民の方にする形でございます。これによって、それを見ている住民の方が水やりとかごみ拾いを積極的に、「あなたはいつやりますか。そうしたら私はいつやります」というようなやり取りをしながら、気軽に参加できる取組が始まっているところがございます。

続きまして7番目でございます。こちらは地域住民が主体となった芝生のある公園づくりでございます。登戸に新しくできました登戸つくりと公園で実施されている取組でございます。こちらは地域の住民の方々が公園づくりから参加していただいております。そして管理運営協議会を結成していただいて、自ら保育園や地域向けへのお知らせ会を実施してみたり、あるいは芝生の管理日をSNSで発信して、仲間を募りながら、芝生管理を始めている取組でございます。

続きまして8番目の取組でございます。こちらはフェアのタイミングで整備いたしました夢見ヶ崎動物公園のパークセンターの活用事例を紹介しております。こちらは動物園ということもありまして、動物や自然などの命を感じることをテーマとした様々なコラボ事業が生まれていること。そして、そういったこととプラスしまして、地域の子育て支援などのコミュニティ拠点として活用され始めていると。そういったことをこちらで御紹介させていただきます。

続きまして9番目の取組でございます。こちらは既存のイベント等と連携いたしまして、みどりの魅力を体験するコンテンツを提供することでございます。フェアを通じて生まれました取組が様々な指定管理者などが実施する既存のイベントと連携している展開が出てきております。例としては夜の公園の活用を試したところがございます。今まで、あまりなかなかそういったところに取組ができなかったり、生田緑地などにおきましても、指定管理者の事業として夜の緑日の開催が始まっていると。そういったところで指定管理事業と融合していく取組も始まっていることを紹介させていただきます。

紹介しました取組は一部でございます。フェアのテーマ「みどりで、つなげる。みんなが、つながる。」。こちらは今までも、そしてこれからも続けてまいりたいと、こちらでお示しして、本日の資料は以上とさせていただきます。

【福岡幹事長】

御説明ありがとうございました。

それでは、ここから、この資料で次第2にですかね、に関して皆様から御意見を頂きたいと思っております。私からは会場を見ることができないので、会場で挙手があった場合は、矢口さんのほうでお名前を言っていただけますでしょうか。よろしく申し上げます。

【事務局（矢口課長）】

はい、分かりました。それでは皆様から御意見を頂きたいと思います。よろしくお願ひいたします。では、栗原幹事、お願ひいたします。

【栗原副幹事長】

私は、協働推進の担当をしていたんですけども、今、スライドを見せていただいて、フェアボランティアさんという新しい名前が出てきて、たしかフェア前から、ボランティアさんが参加するような形で、今見ているだけでもかなり多くのボランティアさんが参加してくれたのかなと思っています。それもベテランのボランティアさんもいれば、今回初めて参加された方もいて、いろいろな地域からいろいろなボランティアの方が集まって、学校の花苗づくりとか、花飾りとか、あるいは維持管理、いろいろな場面をみんなで同じ釜じゃないですけども、同じ場所で作業をしたと。先ほど今年2月に交流会があって、110名の方々が参加されたというお話があって、あの場に僕も参加させていただいたんですが、非常に良い交流ができたんじゃないかなと思います。

今回のフェアの一つの成果という部分でも、市民がみどりに関わる機会があって、今のを見せていただいた内容で、それが引き継がれている。新しい部分で引き継がれている部分が非常にいいのかなということで、Green for Allというテーマが今に引き継がれて動き出している感じがありますね。もう4か月過ぎちゃったことがあって、これを継続していくことがすごく大事なのかなというのがあります。

これは僕の個人的な反省なんですけれども、以前、コロナがあった時期がありました。そのときに、みどりの活動が一時できなかった時期があったんですね。多くのボランティアさんと、そこでちょっと空白の時間みたいなのが生まれちゃって、そのときに、もっと何かいろいろなものを発信してつなげておけばよかったなど。そこで縁が切れちゃった人、体力的、精神的に縁が切れちゃった人があったので、なるべくそういった空白の時間をつくらぬような形でこまめにつないでいくことが大事なかなと思っています。

まちづくりの話が出ていたので、自分が今やっていることをお話ししたいんですけれども。今、協会でこれからコミュニティガーデン講座をやる予定でいるんです。これはどちらかといったら、これからみどりに関わっていく比較的新しいボランティアの方たちを対象にやっていこうかなと思っています。

今、いろいろなお話があった中で、コミュニティガーデンは皆さん御存じだと思うんですけど、地域の庭みたいなもので、ある意味、地域の拠点みたいなものをつくって行って、みんなで楽しみながら、そこで何かをしていこうというものが一つの狙いになっています。そういう新しい地域拠点をつくったり、今ある拠点をさらに活性化したりとか、あるいは高齢化しちゃったんでリニューアルしたりとか、そういった形で、今回のフェアに参加された方たちが今まで地域でやられていた方たちと一緒にできるような、新しい人たちだけではなくて、今までやられていた方たちとうまく交流して、できていけるような何かそんなものができればかなと思っています。

ですので、フェアボランティアの方とうまくこれからつながっていくには、僕は地域に拠点的なものがあって、その拠点がつながっていくことが大事なんだなと感じているので、ぜひこまめにフェアボランティアさんを活用と言うと怒られちゃうかもしれないんですけ

ども、やっぱりボランティアさんもやってよかったなと思えるようなことが大事だなと思いますので、ぜひそういった取組を展開していただければなと思っています。

また私で何かできることがあったら御協力したいと思いますので、よろしく願いします。以上です。

【福岡幹事長】

栗原さん、ありがとうございました。

そのほかはいかがでしょうか。

【反町幹事】

皆様、改めて誠にお疲れさまでした。私もいろいろな形で、この幹事としての立場はもちろんそうなのですが、いろいろな行催事とかにも携わらせていただいたわけで、まずは本当に秋春を乗り切って最後まで走り続けることができた。今、数字も含めて成果も含めていろいろと改めて教えていただいて、まずやり切ったという気持ちがすごくあって、これは私だけではなくて、私が一緒に普段、川崎でお仕事をしている人たちとか、いろいろな人たちが特別な思いを持って取り組んでいったものなので、川崎としてこれをやり切った思い、達成感、充実感みたいなものをすごい持って終えられたこと。これを改めて皆さんにお伝えをしたいなと思ったところです。

そういった気持ちもあって、このフェアが終わった以降も今、御報告の中にもあったような形で、いろいろなイベント等々とか、イベントではないほか事業とかであっても、やはり花とか、みどりとかに、より意識を向けたり、イベント会場で装飾を試みたりとか、そういったものをテーマにして、それこそ緑化フェアをやった終わったタイミングで、そういう花やみどりをテーマとして、例えばトークショーとか、ワークショップとか、そういったものもやったほうがいいんじゃないかという話がやっぱり出るようになったんですね。そういうのも私もぜひやっていきたいなと思っているところなので、そういう意識のところでも、この緑化フェアをやったのはすごく意義があったんじゃないかなと思っています。

私自身も個人的にも、今までも花とみどりは割と好きなほうでしたけど、実際それを行動に起こすところまではなかなかできていなかったような気がしたんですけども、随分本当に花とか、観葉植物とかですけれども、自分で買うようになって、いや、結構育てるのは難しいなと思って、植物は大変難しいですね。

実は私、この間、川崎の後の岐阜の緑化フェアに行ってきました。すごい楽しかったし、川崎の緑化フェアでお世話になった方がそのまま岐阜でお仕事をされていたりして、そういった方にも会ってきた。実は岐阜で、岐阜の植物の専門家の方にすごいお勧めされて、鉢植えを買ってきたんですけど、実は多分もう復活できないぐらいに弱ってしまった。多分暑いからなんです。

そんなこともあって、それはちょっと残念な話なんですけど、でも、そういういろいろなつながりが生まれたりなので、緑化フェアを川崎で開催した意義とか、こうして関わらせていただいたのは本当によかったなと思っています。以上です。

【福岡幹事長】

反町幹事、ありがとうございました。
そのほかいかがでしょうか。

【事務局（矢口課長）】

米川幹事、お願いします。

【米川幹事】

前日もモニターで参加させていただいたときもちょっとお話ししたんですけど、私自身も幹事という役目を仰せつかって、いろいろな体験をさせていただいて、いろいろ勉強させていただきました。そのときにも御紹介させていただいたんですけど、パキラという小さい観葉植物を記念に私も幹事としての自覚が芽生えるように、自分の仕事場の机の上に、1,000円ぐらいで買って来たんですね。今はもうこんなに1メートルぐらいにでかくなって、8,000円から多分1万円ぐらいになっている。そんな値段になっていると思うんですけど。そういう意味では、私自身もそうですし、一緒の職場の人間も、私が幹事をやったことに影響されてか、そういうのに興味を持つようになって、高齢者の講習センターという建物がありまして、そこで営業しているんですけど、その階段に花壇をば一っと一面につくってくれたり、いろいろ私に気を使っているのか分かりませんが、そういう一つのきっかけが2つ3つ4つと広がっていったのは事実だなという実感があります。

私、交通安全の関係をやっているので御提案というか。例えば植物とかではないんですけど、交通安全では語呂を変なふうに引っかけて、例えば春の交通安全運動で、大根を交通安全ダイコン絶とか、そういうふうに引っかけてキャンペーンでお配りしたとか、川崎の地区でも梨に交通事故ナシとかとやって、そういう感じでお配りしたりしているんですね。せっかくですので、今、花の名前を見たら、サルビアなんていうのは秋にやりましたね。だから、交通事故サルビアとかと言って、そういうのを、小学生とか中学生で交通事故とか交通安全を本当に小さいときに教育していかないと、大人になってからはなかなか言うことを聞かないので、そういった関係で工夫して、花の語呂じゃないですけど、語呂合わせみたいな感じで、そんな花があったら、学校で、春の交通安全運動なので、この花を植えましょうみたいな取組をしていただくと私も非常にありがたいなと思っていたんですね。

ちょっと長くなりますけども、もう一点。時々、私、気晴らしに市役所の展望室に行って周りを見るんですけど、ビルの屋上はまだまだ緑化の余地があるのかなと思うんです。そこの市役所通りから平和通りと言うんですか、大沼という鰻屋さんがあるところの角のビルがあるじゃないですか。あそこの屋上がすごく低木の植木がびっしりで、突出してすごいですよね。あれを見て、みんな、ああいうふうに、どこのビルも植えたら、きっときれいだなと思って上から見ていたんですね。下から見れば全然見えないんですけど、ちょっとしたね。せっかく建物の展望室があるんで、上からも見かけるようなことにも頑張ったらいかなと思ったのです。以上です。

【福岡幹事長】

米川幹事、ありがとうございました。
そのほかいかがでしょうか。

【事務局（矢口課長）】

深町幹事、よろしくお願ひいたします。

【深町幹事】

お疲れさまです。

私も幹事として関わらせていただいたおかげで、子どもたちと、それから町の人たちと、いろいろな人と知り合うことができて、その中で思ったのは、やっぱり、この町を、自分たちの町をよくしたいと。花いっぱいになりたいとか、安全な町にしたいとかが、みどりを通じて広がっていくのが、とてもみどりっていいなとすごく実感したところです。

川崎はみどりが多い町なんですけど、実際には人の手がないと、このみどりは維持できないんですね。だから、緑化フェアをきっかけに、それはそれはすばらしい花とみどりがいっぱいあふれたけど、これを今後、ずっと維持するのは、それは難しいけれども、でもやっぱり花があって、わあー、すてきと子どもたちが喜んだと。いろいろな小学校に行かせていただいて、子どもたちと苗を育てたりとか、苗を植えたりとか、授業でやったり、そういったところにも参加させていただいたんですけど、子どもたちの盛り上がりがすごくとてもよかったんです。ただ、正直に言うと、実際には先生たちは、ともかくこのミッションを遂行せねばならないというので、とてもプレッシャーを感じていて、それはそれは大変だったと思うんです。緑化フェアが終わって、やれやれという感じで、子どもたちはまだまだ続けたい思いはあるんだけど、学校側としては、いやいやというところもちょっとあるので、それが実際の正直なところであると思うんです。

この緑化フェアをそもそもやるよといったときに、次の100年に向けてどうしていくかが一番大きなテーマだったじゃないですか。その部分がなかなか学校側とかに伝わっていないのかもしれないとちょっと思っていて、すべてをそっくりそのままとは行かないけれども、徐々に花とみどりを増やすこととプラス、この町にみどりを増やすのに、どういうまちづくりが必要なのかを学校側と一緒にセッションしたり、あるいは外部から、私は今回、外から入らせていただいたけど、実際にボランティアとか、みどりに詳しい人とか、そういった方たちが外部から学校とか、そういうところに入ることによって、また広げていったり、先生を助けたりということにつなげていただければなとすごく思いました。

あともう一つ、SNSです。すごく盛り上がったけど、フェアが終わったら、ぴたっと止まってしまって、最近、終わったから、もちろん大変だったと思うんですけど、それこそ先ほどのせっかく盛り上がったのに、ぴたっと終了と。まさにコロナのときに縁が切れてしまったら、そのまますうっと引いてしまうことがあるので、せっかくつながって、皆さん、フォローもしてくださった中で、せめてこつこつと何か続けていただけたらなとすごく思いました。以上です。

【福岡幹事長】

ありがとうございました。
そのほかはいかがでしょうか。

【事務局（矢口課長）】

萩原幹事、お願いします。

【萩原幹事】

やはり先ほど言われたみたいに、子どもたちを今回巻き込んだのは物すごく宝だったと思うんです。ここから先の101年目からの川崎のまちづくりに、せっかくここで培ったこと、学校側から見れば強制的だったかもしれないけど、でも、物すごく大事なことをやっていただいたと思うので、それを何とかこの先につなげていく仕掛けをぜひお願いしたい。

グリーンコミュニティ推進室みたいなのができましたと。これも私、お伝えしたと思うんですけど、やっぱり今まで各区で地域振興課が、その区の花を植えるボランティア団体とかグループが幾つかあるので、それとやり取りをしていたことが、次はこっちなみみたいな形で絶対丸投げされないで、各区の現場が分かる地域振興課と一緒に、そのまま大事に、花とみどりのネットワークを拡大していただきたいなと思うんですね。それで全体の、あっちを向いてあれをやるみたいな旗印を立てたりするのはグリーンコミュニティ推進室なのかもしれないんですけど、そういう点では、せっかく100周年でやったことがこの先の大事な道しるべになって、そのままみんな拡大して行ってほしいなと思いました。

私としては、とにかく食中毒も起きず、多分、各区の保健所さんも本当に命がけで見てくださったので、そういうネットワークはかなりいろいろなことで大事なことだなと思うんです。そういった現場での情報をどうやって皆さんが知るようにしたらいいのかとかも、多分、観光の取組の一つでもあると思うんです。それはひょっとしたら経済労働局なのかもしれないんですけども、全体のいろいろな大事な情報を発信して、自分もそれに参加しようとか、行ってみようとかと思う仕組みをぜひ、今回はデジタルマップなんかをやっていただいたんですけど、これから先、どんどんそれがうまく回っていくといいなと思っています。皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

【福岡幹事長】

ありがとうございました。渡辺幹事お願いします。

【渡辺幹事】

まずは、本当にお疲れさまでした。改めて、これだけたくさんの方のことを成し遂げ、大変だったと思います。ただ、これで終わりではないことが、一番大事ですね。

一つ視点を変えた話をすると、今回の報告を含めてのフィードバック、報告書をつくるかと思いますが、市民を含めて皆さんにどうやってフィードバックするのか？その手順と発表の仕方は、気になるところです。

今回、主催者目線で書いてあります。それは間違いではないのですが、川崎市民で参加し

た人の意識とか、目線はどうだったのかをここに織り交ぜて欲しいですね。主催者はこういうふうにやりました。こういう成果がありました。これは分かるのですが、今回、参加した方々、子どもたちの反響、各地区の人、そういう方々が今回の事業に対してどう思っ
て、次にどうつなげていきたいのか？そういうものを反映した報告にまとめて欲しいなど。
そして、データ収集、アンケートとかヒアリングもされているじゃないですか。それを織
り交ぜてまとめていただくと、すごくチャームな、良い報告書になる。大体、行政の
方が書くと主催者目線のみでの報告になる。確かに、それはそれで主催者としてやるのは、
理解出来ますが、市民目線も反映したフィードバックを執行して欲しいなと思いました。

それから、midori-baさんも含めて、どのようなものが出来たのかなと。
ボランティアは一般的にどこでもあるけど、今回の事業を通じ、川崎なりのオリジナリテ
ィあるエンジンが生まれたら、すごくいい。「ボランティアの方が多く参加して、こうい
う形で終わりました。以上。」となると、それも間違いじゃないけど、そこに強烈なインパ
クトが欲しいし、midori-baという言葉もすごくいいと思う。

それから、今回、各地でやってきたこと、一つの同じ場の中で、皆で協働し、共創したこ
とで、成果が生まれたことは大事。プロジェクトの中で、芽が出て、花が咲き、実がなっ
て、今後も同じようなサーキュレーションがずっと続く。そのサーキュレーションのきっ
かけが、都市緑化フェアでしたが、次はどういうテーマと場が川崎の中で展開されてい
くのか？別にビッグなものでもなくてもいいので、やっぱり種を植えていくことがすごく大事
かと。この持続可能な繰り返し、一つのメカニズムとなって、川崎なりの仕組みで回っ
ていく。そのことを皆さんが、意識して、行動に移す。

そういうことをやり続けることが、すごく大事だと申し上げたい。

【福岡幹事長】

ありがとうございました。

会場からは一通り、皆様から御意見を頂いたと思いますけれども、大西幹事、いかがで
しょうか。

【大西幹事】

ネットワークの環境なのか、音がちょっと聞こえづらかったので、皆さんの御意見がほ
んど聞こえておらず、もしかしたら重複してしまうかもしれませんが。

私が関わった部分で言いますと、緑化をきっかけに、いろいろな市民、団体、企業の方
とつながりができたこと。それから、いろいろな広場や場所を活用した様々なイベントの
実施に挑戦できたことは、川崎市にとって、街の可能性を広げるという観点でも非常に重
要な取り組みであり、これからの川崎の財産になってくるのではないかと感じております
のでここで終わらずに次にどのようにつなげていくのが非常に肝だなと思っております。

皆さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

【福岡幹事長】

大西幹事、ありがとうございました。

それでは、私からも簡単にですけれども、大体いろいろな意見は出尽くしたかなと思

ますけども、1点気になっていることに関しては、42ページ目に、9つのレガシーとなる取組が示されているんですけども、今の見え方ですと、ここでもこういうことやって、あそこでもこういうことやっていて、みんな、いろいろな多様なことをやっていて、いろいろなことが起きていますよという整理になっているような気がするんですよ。なので、グリーンコミュニティ推進室が創設された意味は、何のために、どんなグリーンコミュニティをどこでどういう形でつくっていくのかがミッションなのかなと私は勝手に理解をしています。

みどりの管理と整備の部署は大体、自治体の中では分かれているんですけども、市民協働というところで緑の市民協働部署を持っている自治体は結構少ないです。ですので、今回、レガシーとしてグリーンコミュニティ推進室ができたのはすばらしいと思うんですけども、今後、その対象、例えばどのエリアで、こういったグリーンコミュニティが欠乏しているのかとか、みどりに触れられる子どもたちがここでは著しく少ないから、ここは重点的にやらなきゃいけないとか、あとはスケールですかね。どれぐらいの規模でやるのかとか、あとはどんな体制で、民間でいろいろな動きがあって、そこに川崎市も参加してとか、お金だけの支援とか、あとはいろいろな主体がエリマネ組織みたいな形でグリーンのことをやっている団体もあるのかもしれない。ですので、そういった対象とかサイズ感、スケールとか、あと体制みたいなことを意識して、どこら辺でどれぐらい、どういうコミュニティをつくっていくというよりは、その初動のお手伝いをして火をつけるようなところでやるのが推進室なのか。長い間寄り添うのが仕事なのか。そのあたり、レガシーと併せて整理をされるとよいのではないのかなと思っています。

いずれにしてもレガシーはいろいろな意味合いがあると思うんですけども、グリーンコミュニティ推進室の今後にぜひ期待させていただいて、そういったふうに整理をして伝えていけるといいのかなと思いました。

私からは以上です。

ということで、これで一通り、皆様から御意見を頂いたんですけども、もし事務局のほうで今までの幹事の皆様からのコメント等を受けて、何か補足やコメントがあればお願いしたい。それがもしなければ、次の次第に進んでいきたいと思います。

矢口さん、よろしくをお願いします。

【事務局（矢口課長）】

ありがとうございます。

皆様、様々な視点からの御意見、ありがとうございます。頂いたことの本当に一つ一つがすごく、ここがというところを頂いたところだと思っています。フェアのボランティアの方々の今後の展開も広くいろいろなことに、また新しいところにつながっていければということで取り組みたいと思っています。また、みどりに関わるイベントですね。我々が進めている公園以外にも出かけて行って、みどりについて、いろいろなことをみんなで話し合うことも大事だと思っていますので、そういったこともやっていきたいなと思っています。

またビルの屋上にまだまだ余地があるというお話もございました。いろいろな条件があって、あまりよくないと思われたところにも緑化をする技術もいろいろあることも出てお

りますので、私たちが、その辺の情報を皆さんにお伝えしていくことも必要だと思って
いるところでございます。

またSNSが止まっているというお話、御指摘もあって、確かにそういうことはござい
ます。私たちから発信したいことが本当にあるのに、ちょっと動いてないなというところ
がありますので、そういったこともいろいろと今後も御意見を頂きたいと思えます。

また、つなげる仕掛け、続ける仕掛け、子供たちを含めて、また学校を含めて、そこ
については本当に今、学校の先生方とお話をしていますと、終わったんじゃないの？今年も
やるの？という反応が出てくる先生もあれば、もっとやりたいんだよという先生もいらっ
しゃって様々だと思えます。学校現場を取り仕切っている教育委員会は非常に今回のこ
とを続けていきたいということで一緒に進めていこうとしていますので、引き続き、学校
の皆様がどうやったら関わってもらえるかといったことを進めていきたいと思っております。

それから、最後、渡辺幹事からありました資料の関係ですね。まとめ方が主催者目線に
偏っているという点でございます。今回のところで、まだもう少し総会まで時間がありま
すので、何が加えられるか。あるいは少し文言等の修正とかも我々でもう一回見直して、
大きく変えることはないんですけど、できることを考えてまいりたいと思えます。非常
に参考にさせていただきます。

また大西幹事からありました様々なところでイベント企画などに参加いただいたと。私
たちも様々な方法、また、いろいろなところで広報させていただくことで勉強になりました。
これからもそういったところを活用させていただければと思っております。

また福岡幹事からのお話にございましたが、まだまだ私たち、これからやらなきゃいけ
ない課題がいっぱいございますので、この後の議題でも少しお話をさせていただければと
思っております。以上でございます。

【福岡幹事長】

ありがとうございました。

それでは続きまして、次第3「実行委員会第7回総会の議案について」を事務局より説
明をお願いします。

3. 「実行委員会第7回総会の議案について」(資料2、3)

【矢口課長】

今頂きました御意見を踏まえまして、総会では御報告させていただきたいと思っております。

それでは、資料の2番と3番について説明させていただきたいと思えます。

2番が総会のときに御報告いたします収支決算に関しての報告でございます。

こちらで令和6年度の取組を述べさせていただきまして、最後3ページが収支となっ
ております。令和6年度、7年度に続けての予算という形を取っておりますので、今回は6
年度までに終わった部分で決算ということで出させていただきます。ですので、収
入は、こちらに書かれている決算額23億円強という形でございます。対しまして支出の

決算額は9億円といった形になっております。こちらの収支の差額でございます。差額は令和7年度に繰り越しまして、同科目に充当させていただく形でございます。6年度、7年度にまたがって行っておりますものにつきましては7年度に決算させていただく形になりますので、このような額の繰越金といった形になっておるところでございます。

続きまして資料3でございます。こちら実行委員会総会の際に懸けさせていただきましたが、「実行委員会の解散及び残余財産の清算について」になってございます。

8月の総会におきまして、この実行委員会の解散を決議させていただく予定でございます。それ以降、こちらの決議をいただきました後は清算の事務を進めまして、来年3月に書面で実行委員会の総会を開催させていただきまして、令和7年度の事業報告、収支決算につきまして御報告・議決させていただきたいといった内容となっております。

なお、4番目に書いてございます残余財産につきましてでございますが、収支決算において生じた残金、物品、著作物に関わる権利、こちらにつきまして川崎市の帰属とさせていただくとさせていただいております。こちらにつきましても議決は3月、承認しない旨のみの回答を御提出いただく形で書面開催とさせていただく予定でございます。

以上でございます。

【福岡幹事長】

矢口さん、ありがとうございました。

それでは、ただいまの資料2と3の御説明に関して、何か御意見、コメント等がございましたらお願いします。

【萩原幹事】

昨日、資料を見ていて、令和6年度、また7年度なので、この時点ではよく分からない。結局は令和7年度に持ち越された部分の使った分は大体概算がもう終わっているわけだから分かると思うんですけど、結果的に幾らぐらいの感じになるんですかね。これだと巨額に残っていて、この中のどのぐらいが既に消化範囲内で、最終的にどのぐらいを残していくのかがすごく気になったので。多分、見た人全員同じじゃないかと。その点を教えていただければ幸いです。

【事務局】

契約が6年度、7年度で、例えば工事関係のものは手当てが終われば、結構すぐ契約も終わるんですけども、広報関係とかは、まだ一部、契約期間が残っているものもございませう。公式のホームページですとかはまだ運営が続いておりますので、そういうのも含めて大体見込みとしては、恐らく5,000万から6,000万ぐらいが緑化フェアのところとして残るイメージになっております。

【萩原幹事】

市制100周年の予算とはまた別に、これだけを見た場合ですね。

【事務局】

そうですね。市制100周年の中でも緑化フェア関係の部分だけで、大体総額が25.5億円ぐらいだったかと思います。その中で5～6千万円とか、そのぐらいが恐らく残ると見込んでおります。工事とかも本番中も例えばものすごい風が吹いたりとかで、一部緊急対応というところで少し見ていたところもありましたので、そのあたりがバッファー用として見込んでいたところもございます。あまり緊急で対応しなきゃいけないような、すごい風が吹いて修理したのはなかったもので、その部分が結果として残るイメージかなと。

【萩原幹事】

寄附金はどうなるんですか。

【事務局】

100周年の緑化フェアで一緒の実行委員会で頂いた協賛金とかも、協賛金で緑化フェアに関する部分ですとか、一緒にポスターをつくって、お名前やロゴとかを入れさせていただいている部分の配分していただいた額みたいなのは、この協賛金額となっています。

【萩原幹事】

国とか県とかから来ているんですね、そもそも補助が。何かなかったでしたっけ。

【事務局】

そうですね。補助も入っています。公園の整備とかに入っていたりとかはございます。実行委員会に直接は国から補助が入るわけではないので、市から負担金という形の中に含まれているイメージかなと思います。一応、川崎市が交付金としては受け取って、その部分も含めて負担金として実行委員会に渡している。

【萩原幹事】

せっかく緑化の話で残ったものだったら、その先は別に文句のつけようがないでしょうけど、せっかくだったら、これから先の川崎市の緑化のために活かしてほしいなと思いますけど。使用目的か何かあるのかもかもしれませんが。

【事務局】

そうですね。まだこのあたりが調整中ではあるんですけども、一応、川崎市で緑化基金がありますので、緑化基金に積めないかは、今、内部で調整中なので、この場で言ってもいいかはあるんですけども。そうすると、もう緑化のものにしか使わないための、それ専用のお金の財布になっていますので、緑化フェアで残った部分は、みどりのところにしか使いませんというところで受入れができないかなとは思っています。

【萩原幹事】

グリーンコミュニティ推進室には予算がついているんですか。

【事務局】

そんなにはちょっとないかもしれないですね。ただ、先ほど言った緑化基金の所管とかもしておりますので。

【萩原幹事】

そうなんです。結構、緑化基金は寄附はそっちに入れてくださいみたいな感じで、私も緑化の話があると、そっちにという話によくなるんですけども、その割には、そこがどうやって緑化を増やしているのか、よく分からない。何となくよくなったねで終わっちゃうので、せっかくだったら、この動きの続きが、一緒のあれだとか、何かそういうのにできたらと。言えるものなら言いたいですね。

【渡辺幹事】

レガシーもしっかりできるから。でも、なかなか行政的には難しいよね。

【事務局】

そうですね。例えばレガシーにつながるいろいろな取組の予算はもちろんこちらも要求を引き続きしていきます。

【渡辺幹事】

でも、それを使ってもね。

【事務局】

そうですね。ちょっと細かな話ですけど、要求した中で一般財源が当たるのか、基金が当たるのかという問題はあるんですけど、一応、フェアのレガシーとして使える予算は、こちらも引き続き、小学校の今年やっているものもそうですけども、ああいうのも去年から、ずっと今年度も7年度も続けますということで計上させていただいて続けられているとかあります。

【萩原幹事】

終わった、終わったと言って、あのとき、予算があったからできたんだけどと絶対言われるじゃないですか。だから、ちょっと確保してほしいなと思うんですけど。

【事務局】

そこは今年度も170校で続いているとかは引き続き確保していきます。

【萩原幹事】

そうですね。育てるための大事な資金ですからね。

【事務局】

はい。ちょっと特別なので。いかに今後は日常のところに溶け込むかと。

【渡辺幹事】

ほぼ見通しどおりの収支ですよ。

【事務局】

収支はそうですね。

【渡辺幹事】

赤字になってなくてよかった。

【事務局】

執行率的には98%ぐらいだと思うので、割とぎりぎりまで。さっきの何かあったとき用というところで取っておいたお金がちょうどというイメージぐらいかなと。

【福岡幹事長】

よろしいでしょうか。

それでは、ほかになれば、続いて次第4、その他に進みたいと思います。

矢口さん、その他の御説明をよろしくお願いします。

4. 「その他」(参考資料1)

【事務局(矢口課長)】

それでは参考資料1を御覧いただきたいと思います。先ほど、お話に出ております今月末の総会についてのお知らせでございます。

第7回総会・交流会でございますが、こちらが8月29日の金曜日、総会が15時から16時半の予定で開催いたします。またその後、100周年で生まれたつながりをこれからも継続・発展させていくことを目的としまして、交流会を開催いたします。こちらが17時から18時の予定でございます。場所は溝の口にございます洗足学園音楽大学、1つ目の総会の前田ホール、そして交流会はカレッジセンターMUSEで——敷地内でございます——開催いたします。ハイブリッド形式ですので、対面の御参加とオンラインの御参加ともできる形となっております。すみません。交流会はオンラインはないんですけども、総会はハイブリッドで開催する予定でございます。

続きまして、参考資料2を御覧いただきたいと思います。今後のスケジュールでございます。

8月29日、総会を洗足学園で実施させていただきまして、この場で実は100周年の記念の冊子、そして緑化フェアの公式記録と2冊、お渡しする御予定でございます。また、このとき、皆様にもまた別途配送する形で準備を進めておりますが、この日が初めて皆様、外に出す日ですので、起こしただければ、ほかほかの出来立ての状態です。手に取っていただける形でございます。

その後、事務局の精算処理を行いまして、3月に緑化フェア幹事会を、こちらを御開

催という形で開催させていただく御予定でございます。議題の承認ない場合のみ、御返信を頂く方式で開催させていただくことを予定しているところでございます。同じく3月に実行委員会総会も書面開催させていただく予定となっております。

以上でございます。

【福岡幹事長】

ありがとうございます。

今の参考資料1と2に関して何か幹事の皆様から御質問等はございますでしょうか。よろしいですかね。ありがとうございます。

それでは、続いて次第5になりますかね。こちらを矢口さんからお願いします。

5. 閉会

【矢口課長】

ありがとうございます。

本日頂きました皆様からの御意見を踏まえまして、また今後も取組を進めてまいりたいと思います。

一旦、こちらで幹事会は終了させていただきたいと思います。

そして、その後の意見交換を開始させていただきたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。

【福岡幹事長】

ありがとうございました。

以上。